

カリン・アカネ・ジョディの
3人に襲い掛かってくる
大量のSCの群れ。
果たして彼女達の
運命やいかに…

基本CG・7枚
本編差分・77枚
その他差分・116枚

合計・200P

ジュエルヒロインズ

敗北ファイル

2

エデンの刺客・コレクターの罠



カリン・アカネ・ジヨディの3人は、チームでSC（スperlマクリーチャー）の殲滅作戦を行っていた。しかし、突然謎の人物による奇襲を受け、3人とも散り散りにされてしまう。

敵地で孤立させられてしまったヒロイン達にSCの群れは容赦なく襲い掛かる…
絶体絶命の3人。果たして彼女達の運命やいかに!?

謎の襲撃者によって
孤立させられてしまったカリン。
予想外の事態に焦る彼女は
地面からの不意打ちに反応できず、
クリームゾンに下半身を腕ごと飲み込まれ
拘束されてしまった。

すでにエナジーを消耗し、
単純な腕力による抵抗しかできない
今のカリンでは、この
拘束からは抜け出せない。
そんな彼女の胸に、
二本の触手が近づいてきた…



「くそっ！くそっ！
いきなり地面から…！」

「ぐっ、うう！んん！！
だ、ダメだ…解けねえ…！」

ぷんぷん♡
ぎゅ…

ぷんぷん♡
ぐゅ…





「...ひっ!? な、なんだ!?
触手の先から...せ、線虫!」

「くそっ! やめるお!!」

ずる...ずる...

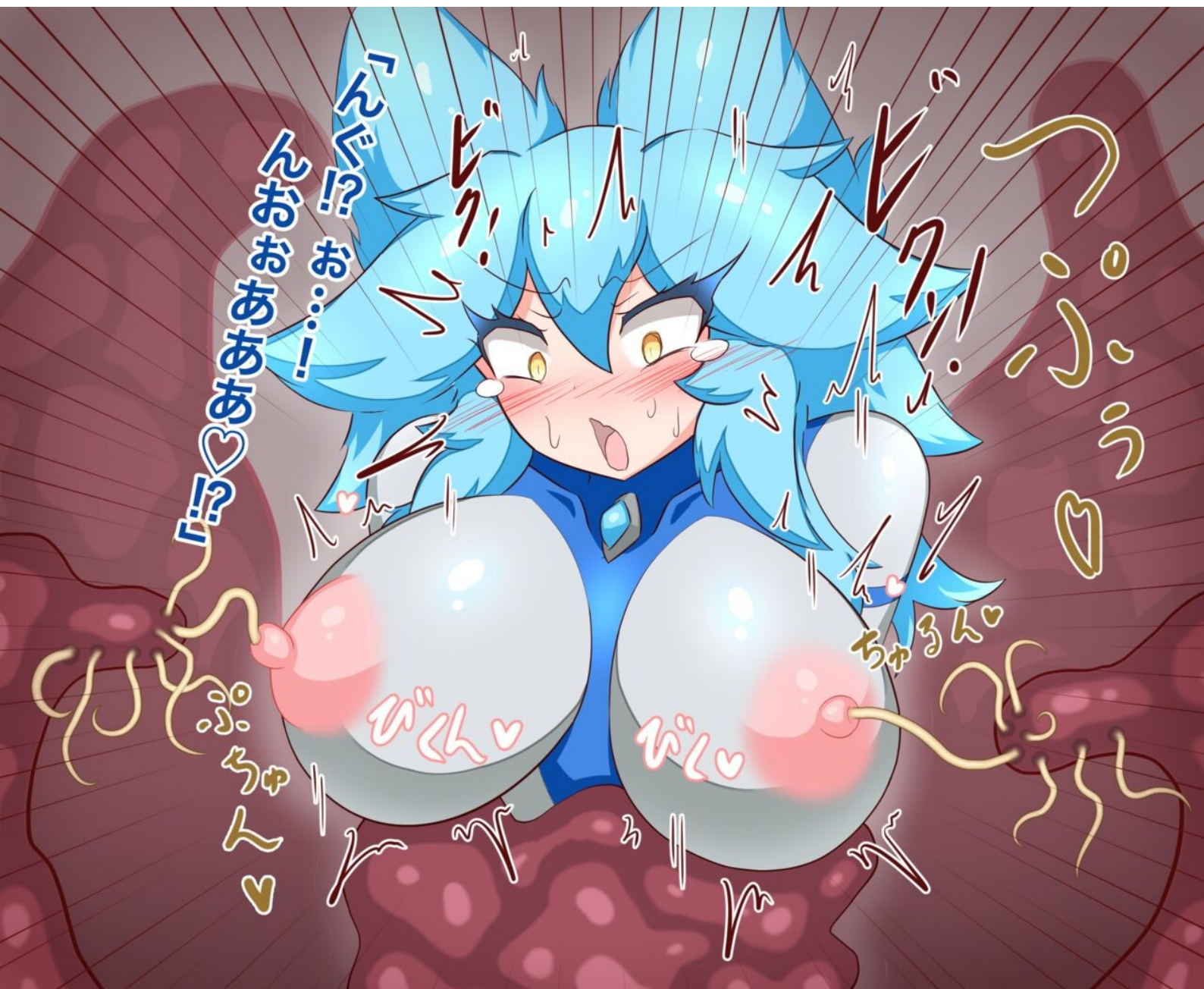
びしょ...びしょ

びしょ

びしょ

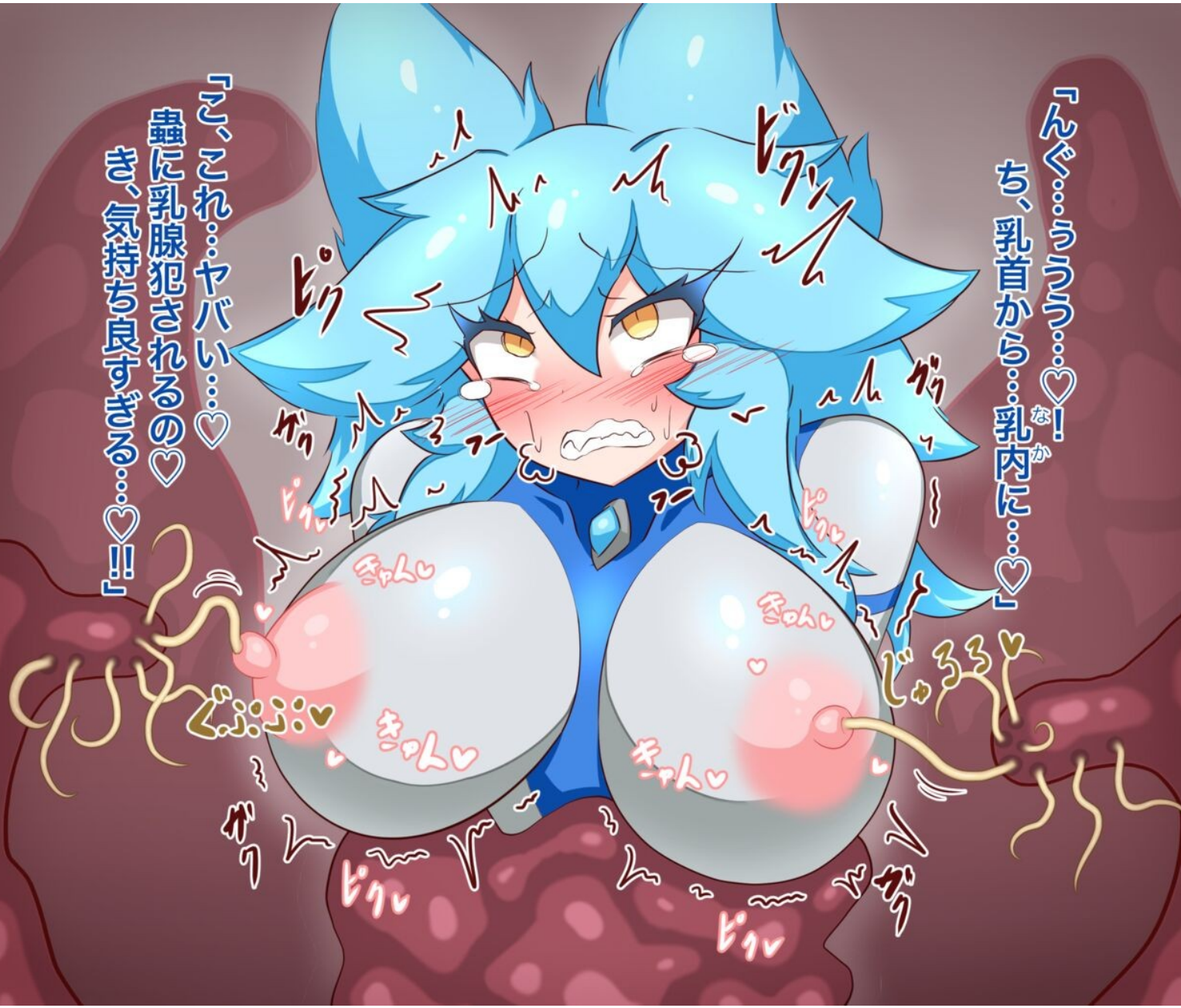
びしょ

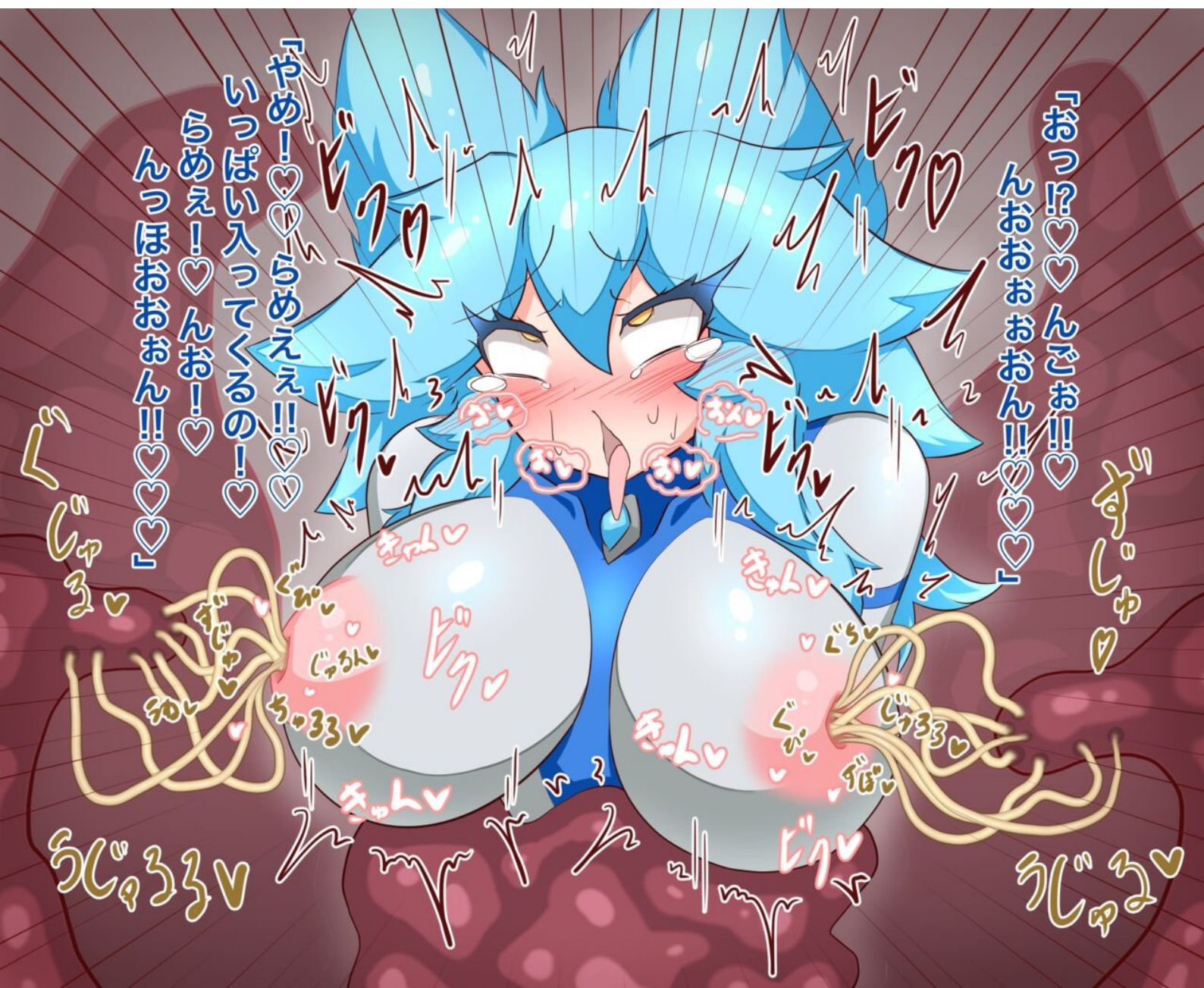
びしょ



「んぐ…うづうづ…♡!
ち、乳首から…乳内^{なか}に…♡」

「ま、これ…ヤバい…♡
蟲に乳腺犯されるの♡
き、気持ち良すぎるの…♡!!!」





「おっ!?♡♡♡んごお!!!
んおおおおん!!!♡♡♡♡♡♡♡♡

「やめ!♡♡♡らめええ!!!♡♡♡
いっぱい入ってくるの!♡
らめえ!♡♡んお!♡♡
んっほおおん!!!♡♡♡♡♡♡♡♡

うじゅ♡

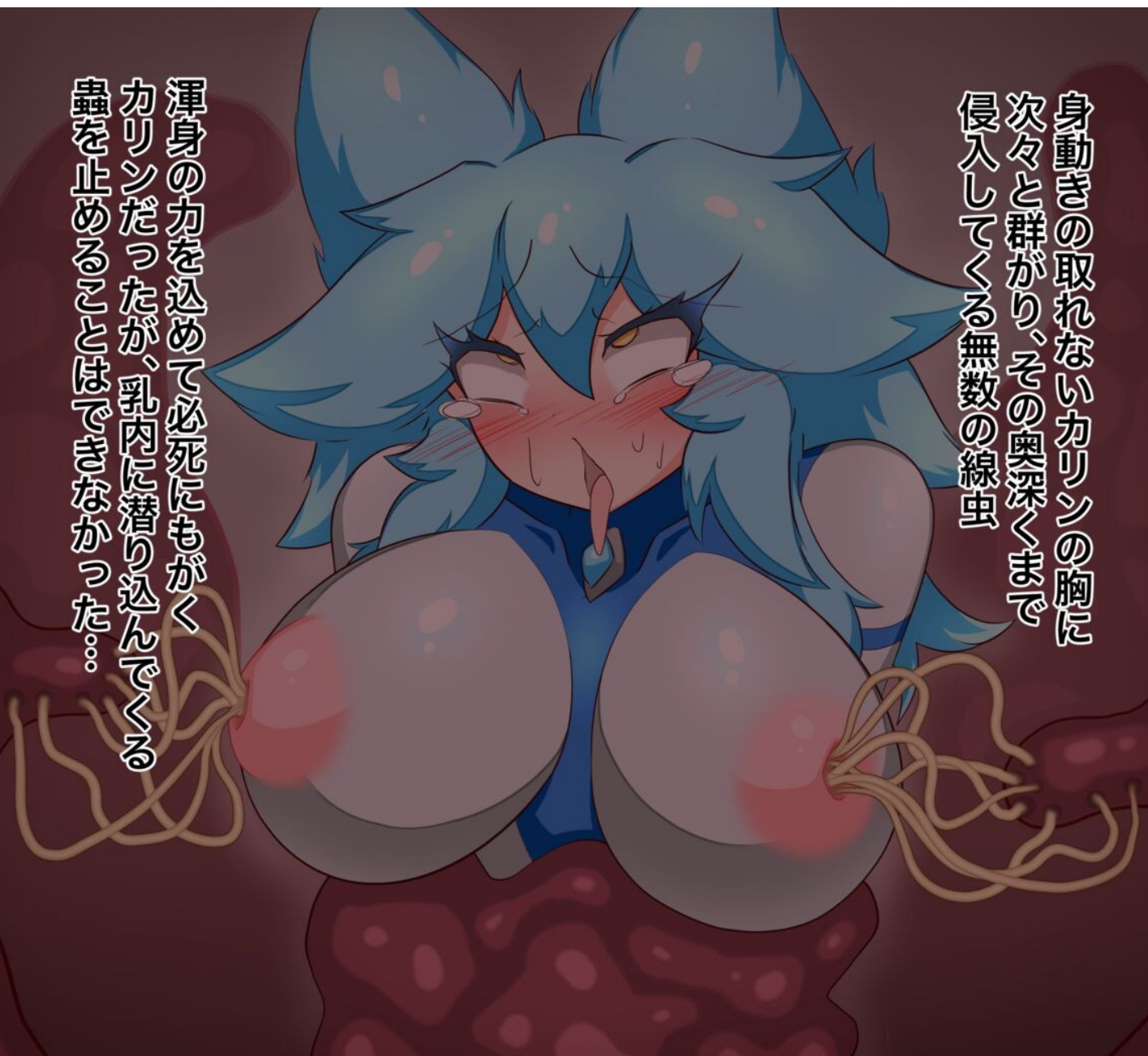
うじゅ♡

うじゅ♡

うじゅ♡

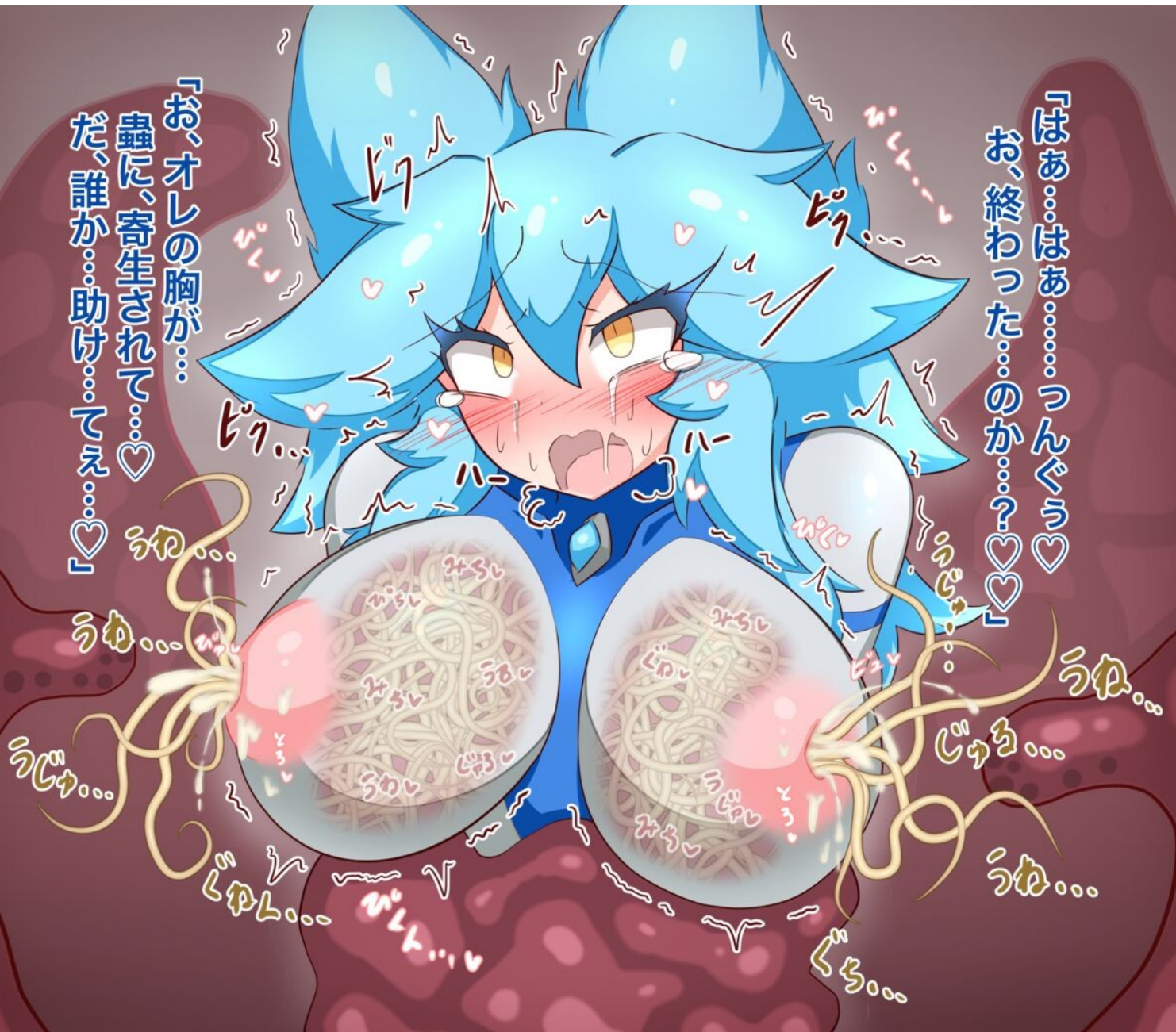
身動きの取れないカリンの胸に
次々と群がり、その奥深くまで
侵入してくる無数の線虫

渾身の力を込めて必死にもがく
カリンだったが、乳内に潜り込んでくる
蟲を止めることはできなかった…

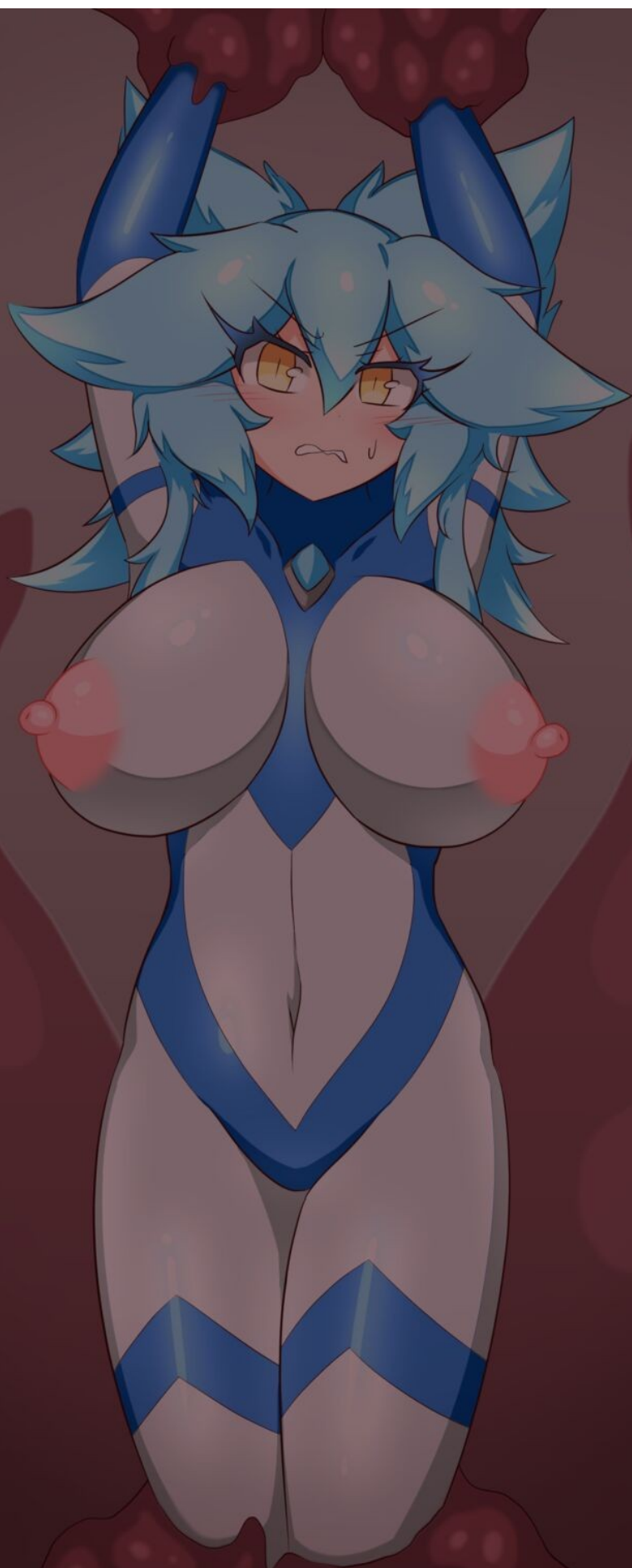


「はあ…はあ…つんぐう♡
お、終わった…のか…?♡♡♡」

「お、オレの胸が…
蟲に、寄生されて…♡
だ、誰か…助け…てえ…♡」



胸を大量の線虫に犯され、
寄生されてしまったカリリン



抗えがたい快感に吞まれて気絶していた
彼女が目覚めると、目の前には
襲撃者、「コレクター」が不敵な笑みを浮かべていた…



「うふふ、初めましてカリンさん。

先ほどの喘ぎ、とっつても可愛らしかったですよ」

「—っ！お前は、さっきの…！」

ぐっ...

「くそっ！アカネ達を何処へやりやがった!?
いったい何が目的で、こんなことしやがる!？」

「あらあら…質問は一つずつでないだとダメですわよ?
でも、愛しいヒロインのため…答えて差し上げますわ」



「では失礼して…んちゅ♡♡」



「!!!」
「…!!!」
「…!!!」
「…!!!」
「…!!!」
「…!!!」
「…!!!」
「…!!!」
「…!!!」
「…!!!」

♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡
♡ちゅ♡

「んぶえ！ぺっ、ぺっ！
い、いきなりなにしゃがる!!!」



「ふふ♡これが『目的』ですわ。…ああいえ
目的の『ひとつ』、とらつほうが正しらでこつよつが」

「最優先命令はジュエルヒロインの捕獲ですが
あなたは特別…私の『コレクション』の一つ
として、丁重にお迎えさせていただきますわ♡」



「はあ…?…ここ、コレクション…?…な、なにを言って…」

「……はっ？…え、な、なんだよ…これ…！
お、オレの体が…右になってく…!?」

「うふふ♪その表情…そそりますわあ♡
驚かれましたか？それが私の『能力』ですわ」

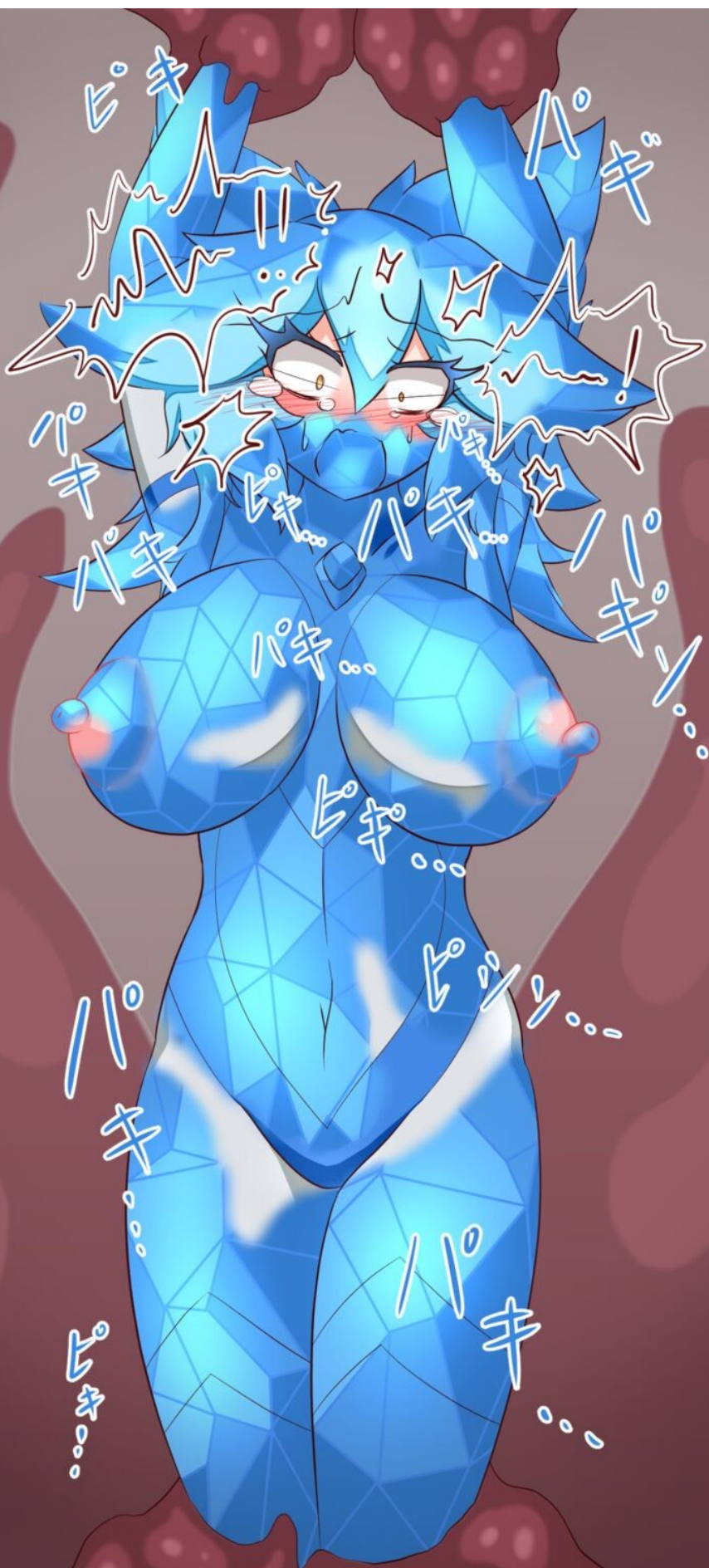


「や…いやだ!! やめる! やめてくれえ!!
な、なんでもするから!! お願い! やめてえ!!」

「……っつふふふふふ! ♡ たまりませんわあ! ♡ ♡
必死に命乞いするその哀れなお姿…最高ですわよ ♡ ♡ ♡ ♡」

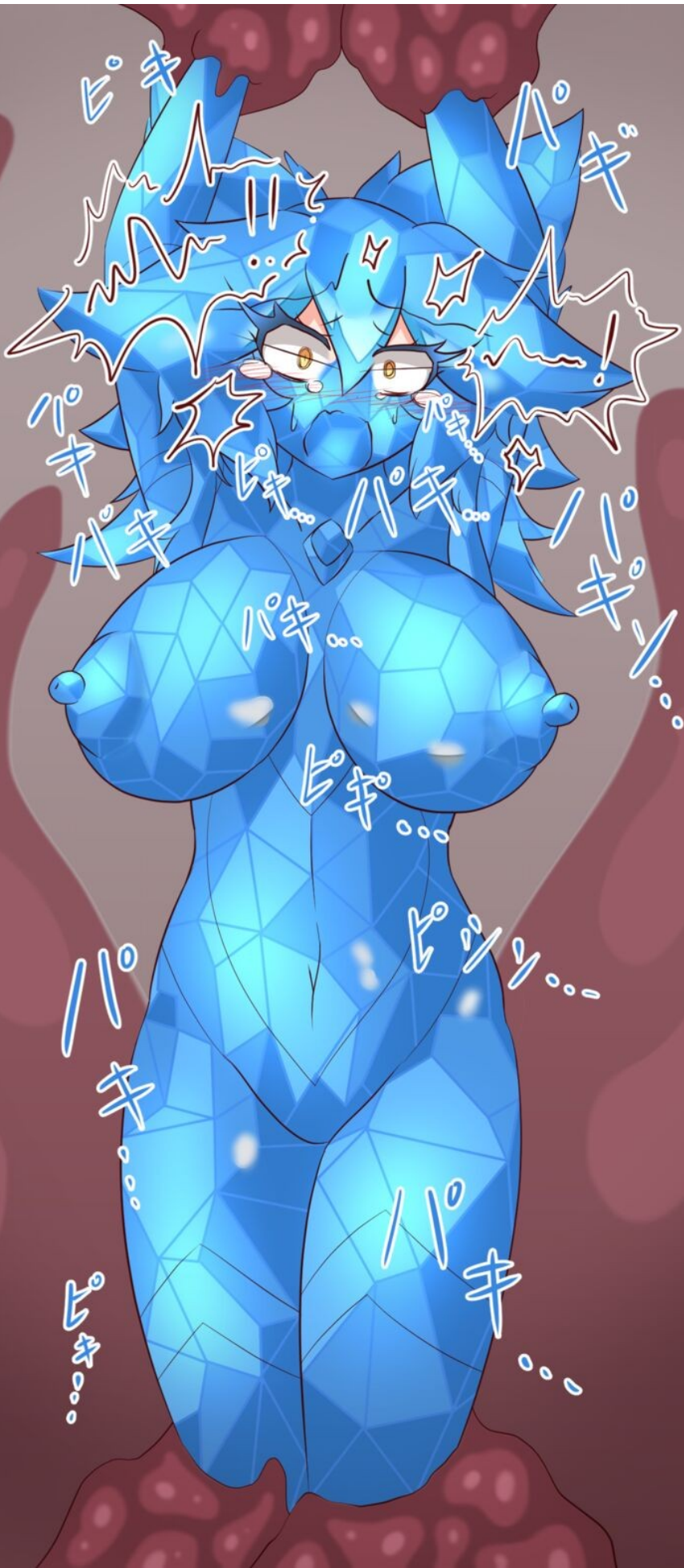


「っ!?」



「あら? お口が宝石になってしまっっては息が
できませんわね。お辛そうに...でもご安心を。
もうじき全身が宝石に変われれば、楽になりますわ♡」

「ふふふふふ♡♡窒息しながらも必死に
目で『たすけてくれ!』って訴えていますわね♡
もちろん、やめてあげませんけど♡うふふふふふふふふふ♡♡」



「!!!」

「っっっっっっっっっっっっ！！！！



「あらあら♡目元まで宝石化が進んでしまいましたたわね♡
ここまでできたらもう助かりませんわよお…うふふ♡
最後の最後まで、しっかりと観察いたしますわあ♡♡♡」





「.....」



「とうとう全身が変質いたしましたわね♡.....ああ!!♡♡
なんて美しいのでしよう!!♡他のヒロイン達を片付けたら
私のお部屋の特等席に置いてあげますからね♡♡♡」



コレクターの襲撃によって分断されてしまったアカネ
彼女は精液沼から這い出してきた触手に捕まり、
沼の中へと引きずり込まれてしまっていた

手足や首を凄まじい力で締め上げられ、じわじわと
体力を奪われる。さらに、精液沼の中では彼女の主力である
エナジー攻撃が使えない…かなりまずい状況だ

「んん…！むっ…ぐう！」

（だめ…！この触手、全然解けない！
首が、締め付けられて…く、苦しい！）

か
は…

ギ
ィ
ィ



ず...
（うう...だ、だめ...!!）
どどん締め付けが強くなる！
私一人の力じゃ、抜け出せない...!!
（じゅのままじゃ...）

ぴち...

キラ...

じゅる...

じゅる...

ずる...

(な、なにこれ…!!? せ、『精子』っ!!?
うそ、大きすぎる…。…っ! 待って、まさか…!!?
や、やだ…やめて! やめてやめてやめてえ!!!)



「ほおおおおお!!」♡♡♡♡♡

ビク!

ビク!

あーん♡

ごぼっ!

かぼっ!

ちゅ♡

ん♡

ん♡

ぐほん♡

(いやああああ!!♡♡♡せ、せーし...せーしがあ!♡
体の中につ潜り込んでくるうう!?!♡ん...おおん!!♡♡♡
やめ...やめてええ!!♡♡んああ!!♡♡おごおおん♡♡♡)





うじ
おおんおおん!!

おおん♡♡♡おー!

おほおおおおん!!

んげ♡♡♡

おげえ!♡♡♡

うじ

うじ

おん♡♡♡

330





(…んぶう…♡お、おげえ…♡♡な、なか…♡
せーし♡おつきいせーしで…♡いつぱい…♡♡
じゅ、受精…♡♡全身じゅせいらい…♡♡んごぼおお♡♡♡)

ほこ♡





精液沼の中で大量のおぞましい巨大精子に
体中を犯されてしまったアカネ

このまま沼の底で苗床に堕ちる運命かと
思われたが、不意にクラゲ型SCの拘束が解かれた

不可解な開放に戸惑ながらも、アカネは必死に
泳いで、なんとか陸地に避難することができた



「はあ...はあ...
た、助がった...?」

「なんで離して
くれたの...?」

ぴち...

ぽて...

とび...

が...

ど...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...

ハ...



びび!

「...! やっぱり
まだ襲ってくる!」

う...?

「...、今度は
一体なにを...」

がし

すっ...





「お、お尻に...♡
手を...おお!♡お♡」

「なん...!?
な...なあ!♡」



「ちかく」

「ビク」

「ビク」

「ビク」



「…ひっつ!?」
「そ、そこは…ダメ!!!」

「尻子つ玉…捕ま…
ぬ、抜かれたら…っ」

「…
し…る…」

「が…
しい…」





体内エナジীর結晶である尻子玉を抜かれ、
エナジীর回路を狂わされてしまったアカネ

エナジীর制御が行えず、立ち上がることもさ
えできなくなった彼女のそばには、いつの間にか
コレクターが近づいてきていた…

「ふふふ、どうやら、ことは予定通りに進んだ
ようですね。精液沼の中で弱らせたのち、
尻子玉を抜き取って完全に無力化…
ふふふ、我ながら完璧な作戦でしたわ♡」

そう、すべてはコレクターの策略だったのだ
カリンに続き、アカネまでも彼女の手に堕ちてしまった

残るヒロインはあと一人
チームのリーダー、ジヨデイのみだ…



チームのリーダー、ジヨディは襲撃による分断後、
コレクターにけしかけられたSCの群れと戦っていた

ベテランヒロインであるジヨディは、劣勢であるにも関わらず
的確にSCを処理・殲滅してみせた

しかし、他のメンバーへの心配が先に立ってしまい、
倒した敵の体内に潜んでいた蛞蝓型SCに気づかず、
その隙を突かれ、体中に纏わり付かれてしまった…



「早く2人を助けに行きたいのニ……！」

「くっ……!!
油断しました……!!」

うじゅ……

くちゅ
ちゅ
いゅ
じゅ

うじゅ

じゅ
さ
る

くちゅ

ちゅ

くちゅ

ちゅ

ひ

ひ

じゅ

うじゅ

じゅ

うじゅ



「払っても払っても...
キリが無いわ!」

「...ウウー! コノ...
ナンでしつこさ...!」

うじゅ...

ギリ...

じゅ...

ぐゅ

ちゅ

ひと...

じゅ...

うじゅ

うじゅ

じゅ...



ジュンくん

ジュン

ジュン

ジュン

ちゅる...♡

ちゅる...♡

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン



「乳首ノ穴から：
は、入って来ル!?」

「オ：：な、ナニ!?
何かガ：：胸に!」

「オッ!!」

「オオ...」

「うぞ...」

「うぞ...」

「くちゅ...」





「どんどん奥に…
潜り込んでくる!!!」

「…!! くうう…!!
き、来て、ル…!!」

キョロ♡

キョロ♡

くちゅ♡



「...フー、フー...
落ち着くのよハワタシ...」

「リスキーだけど、
エナジー放出で...」





「マズい……! は、早く
発動しないと……!!」

「ウツ……!? く、管が
奥に当たったって……!?」





「エナジーバー
スタート…ッ!!」

ク
カ
ッ



「ハア…ハア…
な、なんとか
振り解けた…」

「また襲われル前に
早く…2人を助けに
行かないと…!」





大量のエネルギーを消費して
なんとか窮地を切り抜けたジヨディ

しかしこの時、彼女は自身の乳内の違和感に気付けなかった…

このわずかな見落としが、数分後の「惨たらしい敗北」へと
繋がってしまう、致命的なミスだとも知らずに…

蛞蝓型SCをなんとか振り切り、ついに
コレクターと対峙したジヨディ

豪華絢爛な衣服を纏う襲撃者の足元には
変わり果てた後輩達の姿があった…



「ふふ、ようやくお会いできましたわね。
あなたで最後…お覚悟はよろしくて?」

「カリンちゃん! アカネちゃん!
っ…よくも2人を…!!許しません!」

たっふ♡

ふり♡

ふっふ♡



「あら、無茶はいけませんわよ？ あなた…
先の戦いでほとんどエナジーを
使い果たしているのではなくて？」

くっ…

「…！ さっきのSC達…あれもあなたの
仕業だったのデスね。卑劣な…！」

たっふ♡

ぷり♡

ぷるん♡

つん♡



「それでも…諦めるわけにはいきません！
たとえ刺し違えてデモ…
アナタを倒して、2人を救いマス！」

「ふふ…！それでこそジュエルヒロインですわ！
…ですが残念…。あなた、もう
『終わっている』のですわ…。」







「な、ナニ…？今、胸が跳ねて…
…！か、勝手に動いてる…!？」

「あらあら、ついに始まりましたわね♡
実は、あなたのそのとても大きな胸…
既に『ロイコ』に侵されているのですわ♡」



「ハ…？ロ、ロイコ…？
一体ナニを言つて…」

What...?

「ふふ。何のことか理解できませんねよね？
でも大丈夫。もうすぐ…
嫌でもわかりますから♡」

嫌でもわかりますから♡





「なっ…ナな…ナニツ!?
わ、ワタシの胸が!?!」

ぞわ

No...

「うふふふ♡♡その顔、とっつても可愛い♡
それが『ロイコ』ですわ。アナタ達ヒロインの
乳房に寄生し、そのまま乗っ取っちゃうんですの♡」

ボリン

びん

どん!

じゅ

うぎ

うぎ

カ

カ

イル

カ

ブル

「ひっ…!? ま、また
勝手に動いテ…!?」

「あらあら♡ もう限界みたいですわね♡
さあ、覚悟してくださいまし? これから…
『地獄の快樂』が襲ってきますわよお? くふふふ♡♡」







「あつ...!? オ...♡
お♡オオ!?」

「くふふ♡ ああ醜い♡
最高に気持ち悪いですわあ♡」

ま...♡

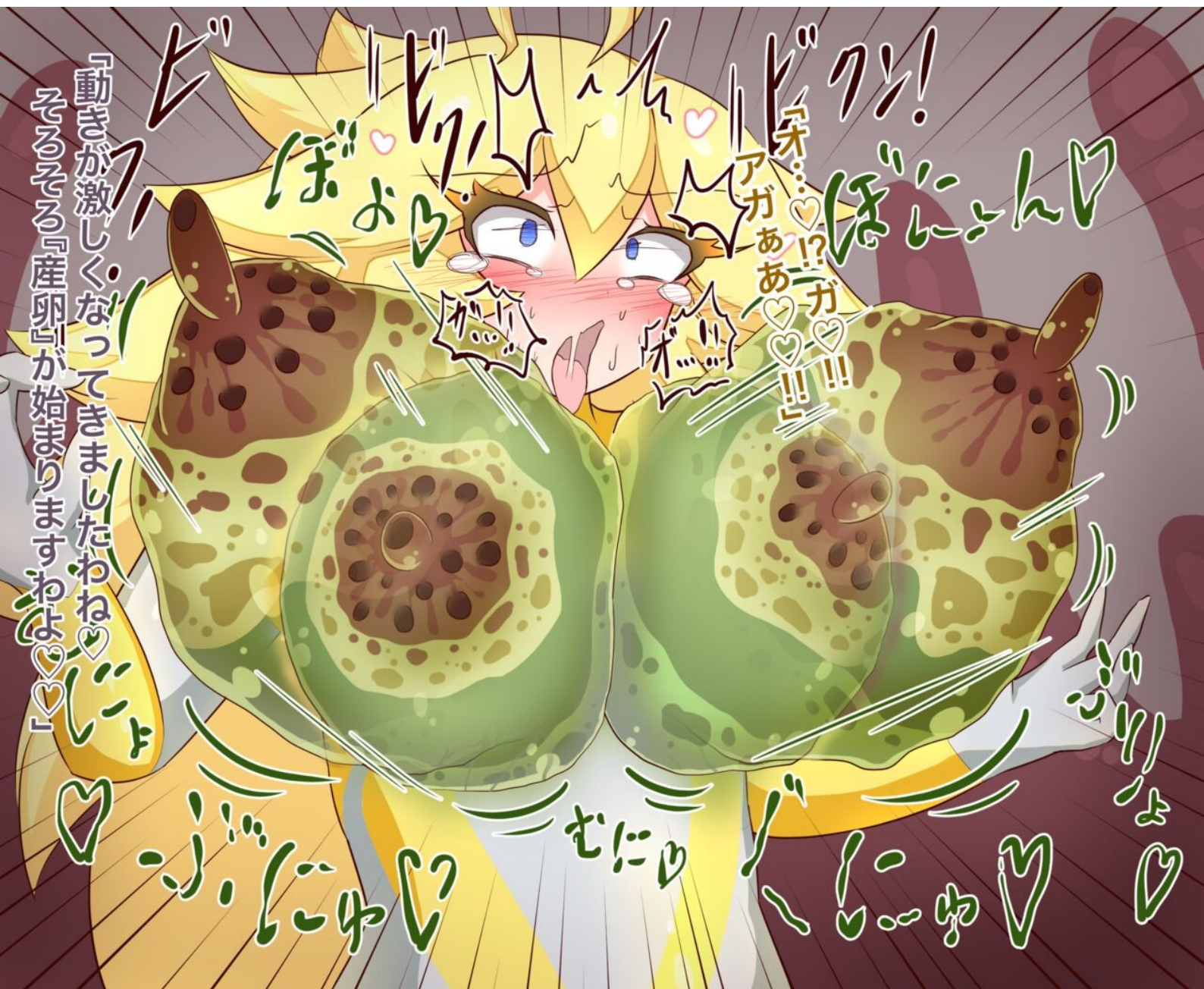
びび♡

びび♡

びび♡

びび♡

びび♡



「動きが激しくなってきましたわね♡
そろそろ『産卵』が始まりますわよ♡♡♡」

ドクン!

ぽお♡

ドクン! ドクン!

アガああ♡
ガ♡♡
ガ♡♡

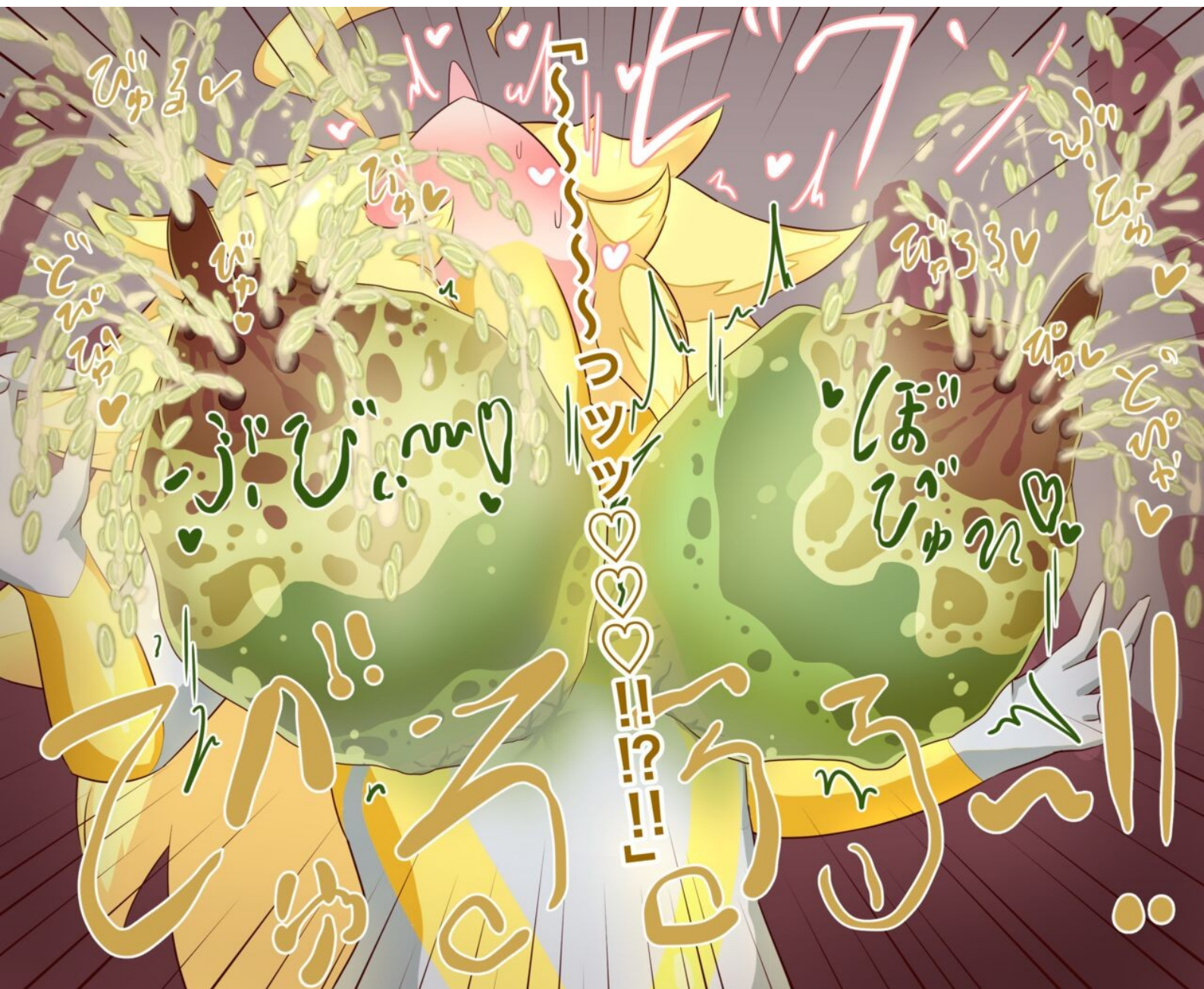
ぽにゅ♡

♡ ズにゅ♡

むにゅ♡

♡ ズにゅ♡

♡ ズにゅ♡









「あらら♡快感が
強烈すぎて
気絶しちやつて
ますわね♡」

「お可愛そう…
せめて他の2人と
一緒に並べてあげましようかね…♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「ぐじゅ♡」

「……コレクター、状況は？」

「目標は3人とも捕獲完了。約束通り、1人は私のコレクションにさせてもらいましたわ♪」

ただ…トパーズの子のロイコ侵食が予想より

深刻でして…「材料」として使うのは少し

難しそうですわ…如何致しましょう？」

「問題ないわ。細胞が生きてさえいれば充分よむしる五体満足でいることの方が嬉しいわ」

それにしても…ジュエルヒロインをまとめて

3人も捕らえるなんて…流石ね、コレクター

やはりあなたを向かわせたのは正解だったわ」

「うふふ♡身に余る光栄ですわ。では、これよりすぐに帰還し、この子達を貴方様に捧げますわね」

「ええ、楽しみに待ってるわ。早く帰ってきてね」

…プツッ

その後、彼女達の行方を知るものは1人もいなかった…

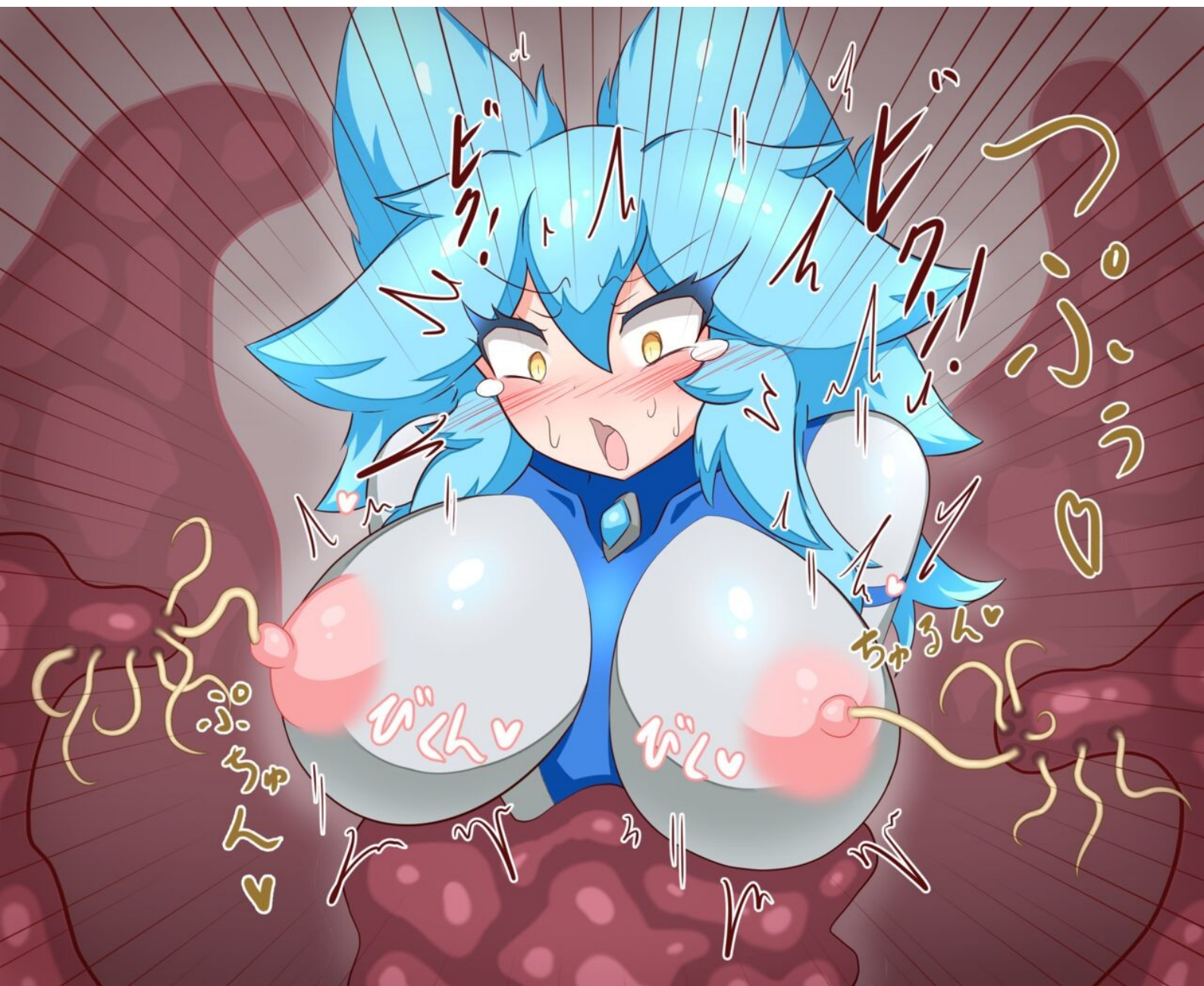


GAME OVER

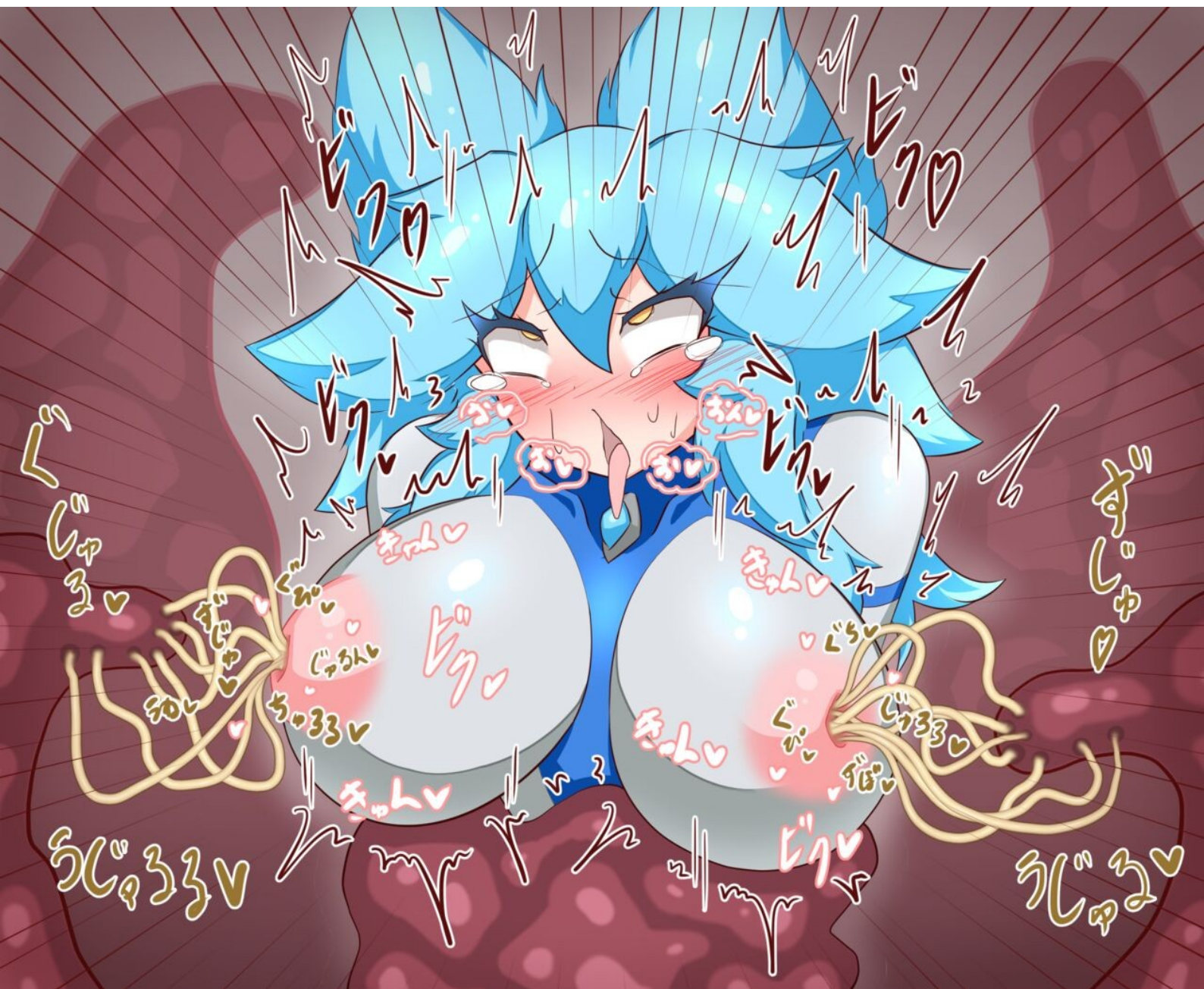


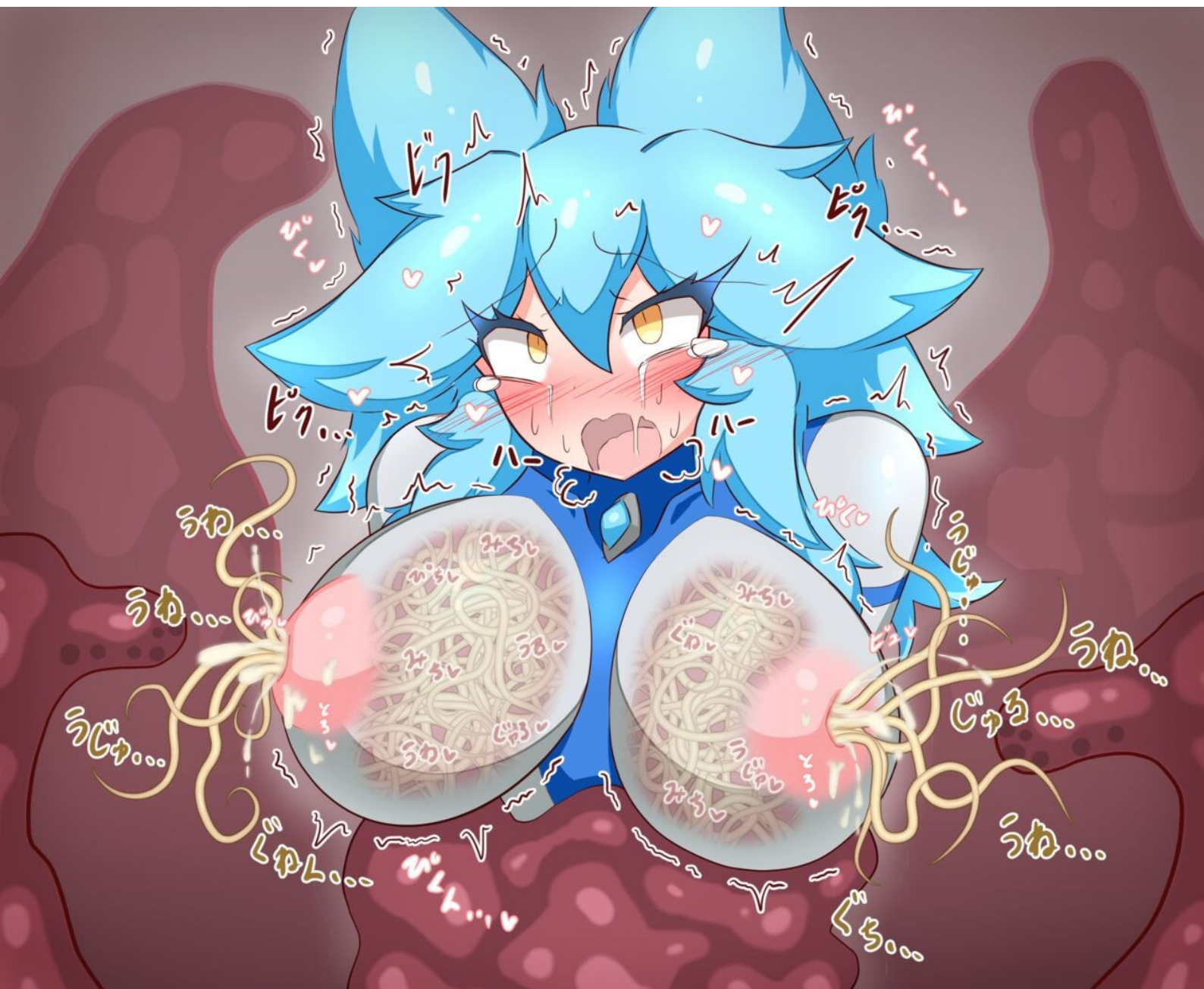














きち

ぐっ



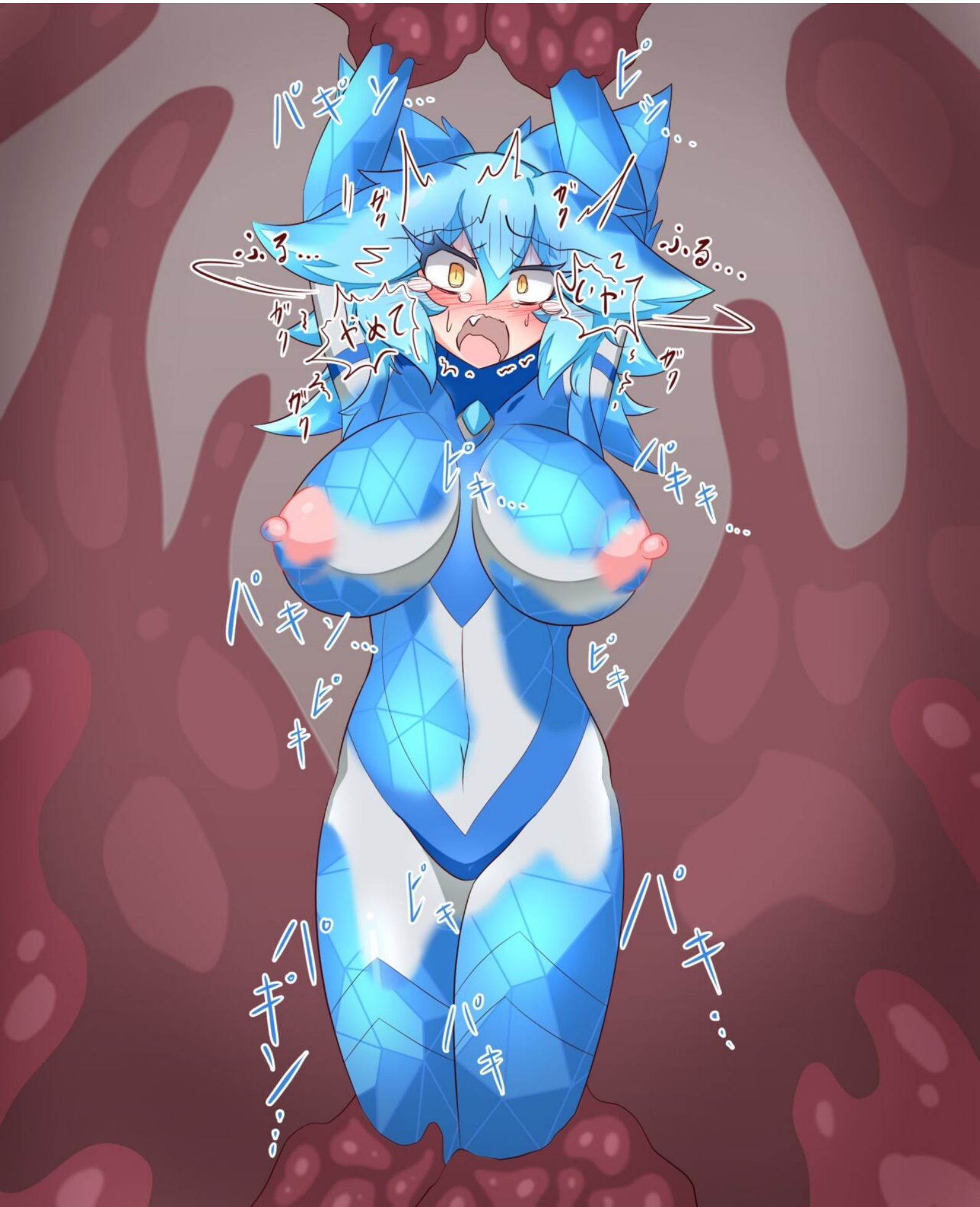


ま、ちゅ♡
♡



















かっはっ...

びび...

びび...



ず...

ぴち...

ぎ...

ぴち...

ぎ...

ぎ...

ぎ...

ち...

じゅる...

ずる...

じゅる...



















すばいお!



























きゅん♡

きゅん♡

きゅん♡

きゅん♡

ぷるん♡

ぷるん♡

ぴゅん♡

きゅん♡



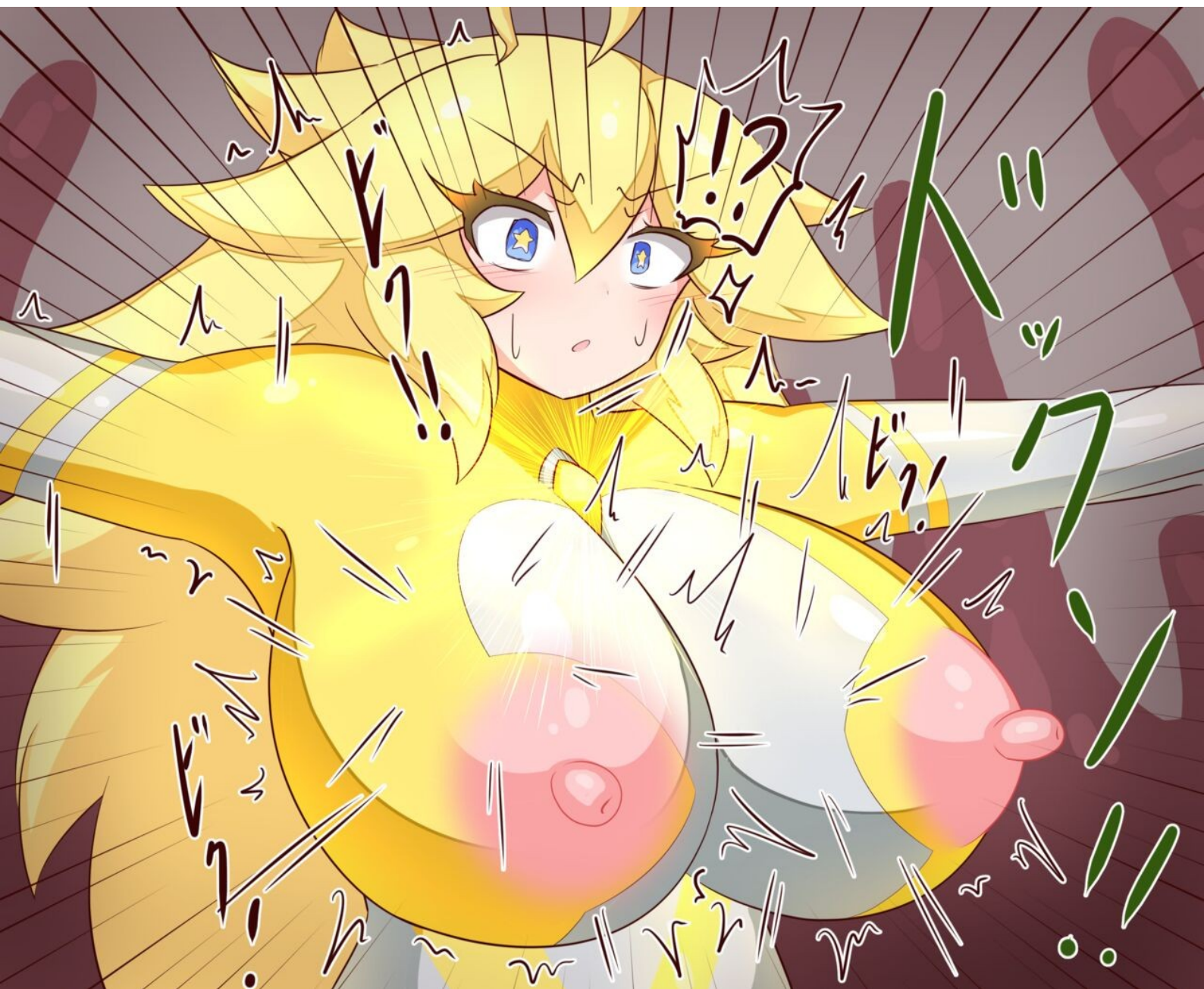
キラキラ
♡

ぷり♡

ぷり♡
♡













おっりゃ...

ずむ...

エ

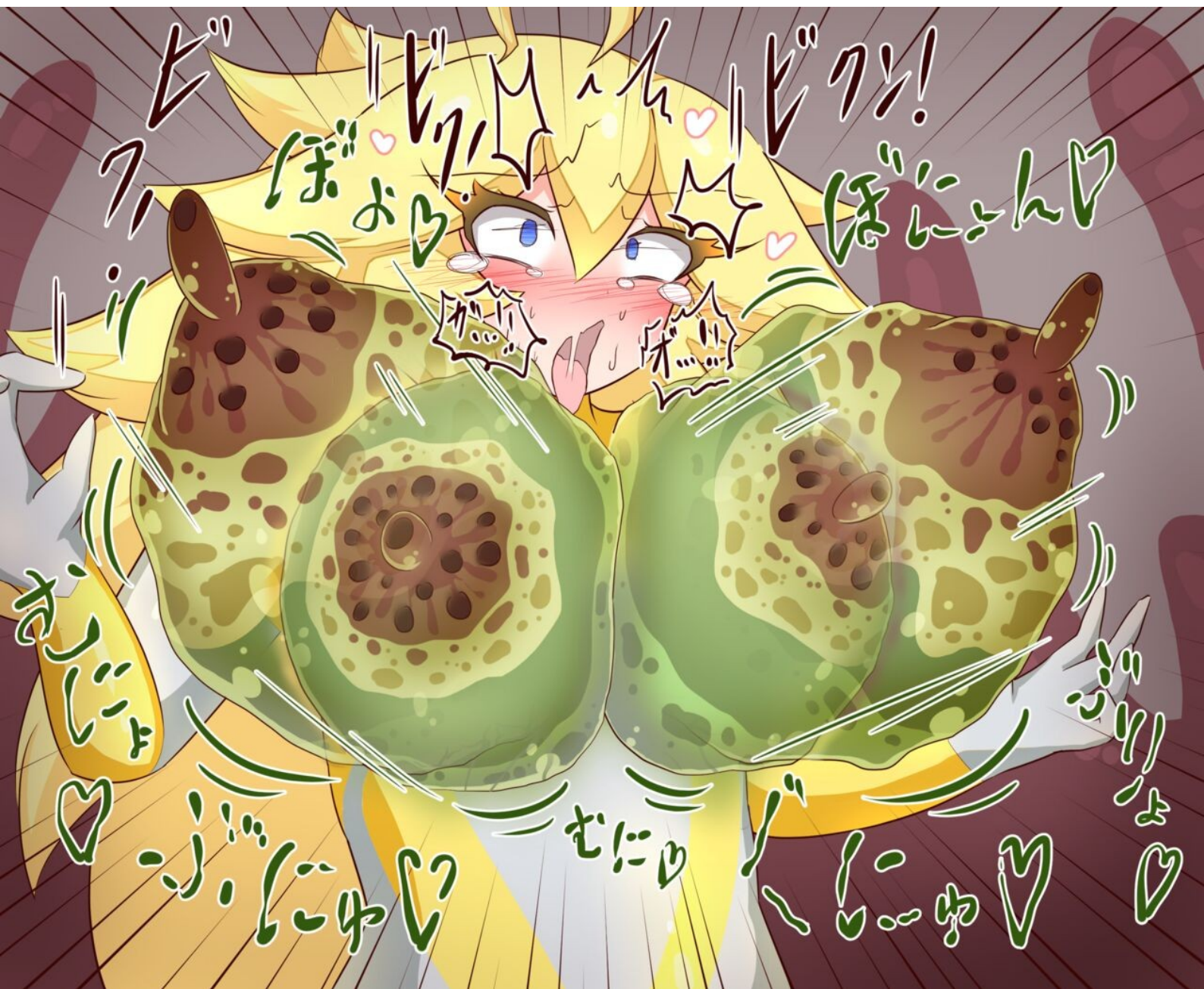
!!











ビッ
フ、
ぽっ♡
お♡
ビッ
ムムム♡
ビッ
クッ!
ぽっ♡
ぽっ♡

あ
ん
ご
う
♡

あ
ん
ご
う
♡

♡
あ
ん
ご
う
♡
むにゅ
あ
ん
ご
う
♡

